

| | | | |
|-------------------|---|--|---|
| キリスト教と文化 | | 通年 4 単位 | |
| C. S. Lewisとキリスト教 | | 伊藤 勝啓 (いとう かつひろ) | |
| ねらい | C. S. ルイス (1898—1964) の生涯を通して、その信仰と知性の在り方を学び、今日の文化に欠落しているものは何かを一緒に考える。 | | |
| 授業計画 | 【前期】 第1回 概要説明+このコースを取った理由と自己紹介 第2回 ルイスの幼・少年時代 第3回 母の死と家を離れる 第4回 学校生活、兄と友人 第5回 カーク・パトリック夫妻とともに 第6回 第一次世界大戦の中で 第7回 ミセス・ムーアとルイス 第8回 信仰にいたる巡礼 第9回 クリスマスとなってからの文学活動 第10回 第二次世界大戦 第11回 ナルニア国物語 第12回 最愛の人Joy Davidman Greshamに会うまで 第13回 Joyとの短い結婚生活 第14回 ルイス最後の日々 第15回 ルイスとキリスト教 | 【後期】 第1回 発表と論評 第2回 同上、2 第3回 同上、3 第4回 同上、4 第5回 同上、5 第6回 同上、6 第7回 同上、7 第8回 同上、8 第9回 同上、9 第10回 同上、10 第11回 同上、11 第12回 同上、12+クリスマス祝会 第13回 同上、13 第14回 同上、14 第15回 最後の論評とまとめ | |
| 進め方 | 講義を中心とするが、その間ルイスの作品を直接朗読してもらい、後期はレジメを作り、クラスで発表・討論し、論評を加える。 | | |
| テキスト | | 参考文献 | C. S. ルイス『喜びのおとずれ』 これはルイスの自伝にあたるもので是非読むようにすること。また、コーレンの『ナルニア国をつくった人』を読む |
| 評価方法 | 出席:50% 発表:50% | | |

| | | | |
|-------|--|-------------------|----------------------------------|
| 科学と社会 | | 前期 2 単位 | |
| STS入門 | | 八耳 俊文 (やつみみ としふみ) | |
| ねらい | 科学技術が急速な勢いで進歩をとげ、その成果はわれわれの日常生活を大きく変えつつある。この進展にともない、科学とは何かを研究するSTS (Science, Technology, Society) と呼ばれる学問分野も生まれてきた。科学技術文明の中で生きるため、これらの議論のいくつかを見ることにする。 | | |
| 授業計画 | 【前期】 第1回 科学技術と社会のきしみ 第2回 科学技術コミュニケーション 第3回 啓蒙型モデルの問題点 第4回 対話型コミュニケーション 第5回 1970年代 第6回 トランス・サイエンス 第7回 システムの不確実性と専門家の役割 (もんじゅ裁判) 第8回 システムの不確実性と専門家の役割 (牛海綿状脳症) 第9回 テクノロジー・アセスメント 第10回 コンセンサス会議とは 第11回 北海道のコンセンサス会議の例 (その1) 第12回 北海道のコンセンサス会議の例 (その2) 第13回 科学技術と社会の関係 第14回 科学技術と社会をつなぐ 第15回 まとめ | | |
| 進め方 | 演習形式。受講生がテキストを分担紹介し、その発表を基に議論をおこなう。 | | |
| テキスト | 小林傳司『トランス・サイエンスの時代：科学技術と社会をつなぐ』（NTT出版、2007年） | 参考文献 | 小林傳司編『公共のための科学技術』（玉川大学出版部、2002年） |
| 評価方法 | 出席:20% 平常:20% 発表:60% | | |

| 日本史特講 | | 前期 2 単位 | |
|-------------|--|------------------|------------|
| 論点の整理をしてみよう | | 小林 瑞乃 (こばやし みずの) | |
| ねらい | 近代日本女性史を学びながら、女性の歴史的 position を国家と国民、戦争と平和、日本とアジアといった観点から捉えなおす。さらに、現代の様々な課題への考察を深める。 | | |
| 授業計画 | 【前期】 第1回 ガイダンス 第2回 文献の講読と討論 第3回 文献の講読と討論 第4回 文献の講読と討論 第5回 文献の講読と討論 第6回 文献の講読と討論 第7回 文献の講読と討論 第8回 文献の講読と討論 第9回 文献の講読と討論 第10回 文献の講読と討論 第11回 文献の講読と討論 第12回 文献の講読と討論 第13回 文献の講読と討論 第14回 文献の講読と討論 第15回 まとめ | | |
| 進め方 | 日本近現代史、女性史の代表的文献を読む。担当者を決めて文献について報告を行い、全員で討議を重ねる。 | | |
| テキスト | 履修者との話し合いの上で決定する | 参考文献 | 授業時に随時紹介する |
| 評価方法 | 平常点:50% レポート:50% | | |

| ヨーロッパ史特講 | | 後期 2 単位 | |
|--------------|---|-------------------|--|
| フランスの従軍司祭の歴史 | | 西願 広望 (せいがん こうぼう) | |
| ねらい | フランス軍の従軍司祭の歴史を扱う。1905年にコンコルダ体制が終了して政教分離の原則が確立してから、1960年代の社会的動揺の中で教会の社会的 position が大きく変容するまでの時代を主に検討する。 | | |
| 授業計画 | 【後期】 第1回 序論 第2回 序論 第3回 第一次世界大戦期の従軍司祭の動員 第4回 第一次世界大戦期の従軍司祭の実態 第5回 第一次世界大戦期の従軍司祭による宗教的実践 第6回 ラインラント地方における従軍司祭 第7回 フランス国内における従軍司祭 第8回 「奇妙な戦争」における従軍司祭 第9回 ヴィシー政権下の従軍司祭 第10回 自由フランスの従軍司祭 第11回 フランスの解放と従軍司祭 第12回 第二次世界大戦後の従軍司祭制度の整備 第13回 インドシナ戦争における従軍司祭 第14回 アルジェリア戦争における従軍司祭 第15回 まとめ | | |
| 進め方 | 講義形式。 「従軍司祭の歴史」は、日本では殆ど研究されていない分野なので、適当な教科書もない。学生には、講義を欠かさず聴くことが求められる。 | | |
| テキスト | 特になし。 | 参考文献 | |
| 評価方法 | 講義感想文(1):25% 講義感想文(2):25% 講義感想文(3):25% 期末レポート:25% | | |

| 芸術文化特講 | | 前期 2 単位 | |
|----------------------|--|----------------|---------------|
| フランス美術研究：新古典主義とロマン主義 | | 大野 芳材（おおの よしき） | |
| ねらい | フランス革命から19世紀はじめにかけて、フランス美術は新古典主義とロマン主義へと大きく旋回する。それぞれの表現の特質を、ダヴィッドやアングル（新古典主義）、ジェリコーやドラクロワ（ロマン主義）の作品を手がかりに考えたい。それぞれが誕生し発展した社会的な背景を、ヨーロッパの歴史のなかで考える。 | | |
| 授業計画 | 【前期】 第1回 インTRODクシヨN 第2回 フランスのロココ美術 第3回 革命前のダヴィッド 第4回 ダヴィッドとナポレオン 第5回 ジェリコー 第6回 ヨーロッパのロマン主義（1）イギリス 第7回 ヨーロッパのロマン主義（2）スペイン 第8回 ヨーロッパのロマン主義（3）ドイツ 第9回 ドラクロワ（1） 第10回 ドラクロワ（2） 第11回 アングル（1） 第12回 アングル（2） 第13回 クールベ 第14回 マネ 第15回 ロマン主義と現代 | | |
| 進め方 | スライド、ビデオなどを用いた講義。学生の発表も織り交ぜるので、積極的な授業参加を期待する。展覧会見学も行う。 | | |
| テキスト | 授業中に指示 | 参考文献 | 各種画集など、授業中に指示 |
| 評価方法 | レポート（2000字程度）：70% 出席・発表点：30% | | |

| 比較文化論特講 | | 前期 2 単位 | |
|------------------|--|----------------|-------------|
| 「愛」をめぐる比較思想・比較文学 | | 中井 章子（なかい あやこ） | |
| ねらい | 「愛」は、人生にとってとても大事なものです。親子の愛、男女の愛、家族への愛など、愛には様々な形があります。旧約聖書の「雅歌」、プラトン「饗宴」、新約聖書、「トリスTan・イズ-物語」を読んで、「愛」についてのヨーロッパ思想の古典を知り、現代と過去の思想の対話、ヨーロッパと日本の思想の比較をします。話し合いが盛り上がることを願っています。 | | |
| 授業計画 | 【前期】 第1回 この特講の進め方について、テーマについて 第2回 旧約聖書「雅歌」解説 第3回 旧約聖書「雅歌」討論 第4回 プラトンおよびプラトン「饗宴」解説 第5回 「饗宴」発表と討論（1） 第6回 「饗宴」発表と討論（2） 第7回 「饗宴」発表と討論（3） 第8回 新約聖書における「愛」 第9回 エロースとアガペー 第10回 ヨーロッパ中世の騎士道 第11回 「トリスTan・イズ-物語」（1） 第12回 「トリスTan・イズ-物語」（2） 第13回 「トリスTan・イズ-物語」（3） 第14回 レポートについて、レポート提出 第15回 レポート講評 | | |
| 進め方 | 参加者全員、テキストを読んできて、話し合います。読書が苦手でも、議論が苦手でも、考えることが苦手でも、心配はいりません。「愛」について、20代はじめの今の時期にいろいろ考えておくことは大切。他の人の意見を聞くことは、自分の考えを深める上で参考になるはず。1200字～2000字のレポートを4回提出していただく予定です。 | | |
| テキスト | 授業の中で紹介する文庫本を各自が購入する。 | 参考文献 | 授業のなかで紹介する。 |
| 評価方法 | 出席、読書、議論参加：50% レポート：50% | | |

| | | | |
|-------------|--|--|--------------|
| ヨーロッパ古典文化 | | 通年 4 単位 | |
| 古代ギリシア演劇の世界 | | 小林 薫（こばやし かおる） | |
| ねらい | 古代ギリシア演劇は、後のヨーロッパ演劇や文学に多大な影響を与えた。本講義では「三大悲劇詩人」アイスキュロス、ソポクレス、エウリピデスや、ギリシア喜劇詩人の代表アリストパネスの作品を精読する。これらの作品が上演された、紀元前後世紀の民主政アテネの社会状況についても学ぶ。 | | |
| 授業計画 | 【前期】 第1回 序論：ギリシア演劇の世界 第2回 西洋近代における古典古代の受容 第3回 民主政アテネの社会と文化 第4回 ギリシア悲劇の上演制度 第5回 アイスキュロス：『ペルサイ』1 第6回 アイスキュロス：『ペルサイ』2 第7回 アイスキュロス：『ペルサイ』3 第8回 アイスキュロス：『ペルサイ』4 第9回 アイスキュロス：『ペルサイ』5 第10回 ソポクレス：『オイディプス王』1 第11回 ソポクレス：『オイディプス王』2 第12回 ソポクレス：『オイディプス王』3 第13回 ソポクレス：『オイディプス王』4 第14回 ソポクレス：『オイディプス王』5 第15回 これまでのまとめ | 【後期】 第1回 エウリピデス：『メディア』1 第2回 エウリピデス：『メディア』2 第3回 エウリピデス：『メディア』3 第4回 エウリピデス：『メディア』4 第5回 エウリピデス：『メディア』5 第6回 エウリピデス：『メディア』6 第7回 ギリシア悲劇とギリシア喜劇：ジャンル論 第8回 民主政アテネとペロポネソス戦争 第9回 アリストパネス：『女の平和』1 第10回 アリストパネス：『女の平和』2 第11回 アリストパネス：『女の平和』3 第12回 アリストパネス：『女の平和』4 第13回 アリストパネス：『女の平和』5 第14回 アリストパネス：『女の平和』6 第15回 まとめ | |
| 進め方 | 本講義で扱う作品を事前に読んである事を前提に授業を行うので、必ず予習しておく事。スライドやDVDなどを視聴覚教材を用い、理解を助ける。 | | |
| テキスト | ソポクレス『オイディプス王』 藤沢令夫訳（岩波文庫）ISBN4-00-321052-2 | 参考文献 | 参考文献リストを配布する |
| 評価方法 | 期末試験（前期）：30% 期末レポート（後期）：50% 課題：10% 出席：10% | | |

| | | | |
|--------------|---|---|---|
| アメリカ文化論 | | 通年 4 単位 | |
| スクリーンに見る黒人女性 | | 岩本 裕子（いわもと ひろこ） | |
| ねらい | アメリカ黒人の「はじめて」は、彼らの意志とは無関係にアフリカ大陸から「連れてこられて」アメリカ大陸に運ばれた1619年のことである。以後390年間の黒人史を踏まえて、映像に描かれた黒人女性について考えていきたい。 | | |
| 授業計画 | 【前期】 第1回 前期講義内容紹介 第2回 前期発表担当映画決定（以下担当映画） 第3回 『風と共に去りぬ』 第4回 『南部の唄』 第5回 『アミスタッド』 第6回 『ピラウド』 第7回 『ルーツ』 第8回 『クイーン』 第9回 『ジョゼフィン・ベーカー物語』 第10回 『ビリー・ホリデー物語』 第11回 『カラー・パープル』 第12回 ドキュメンタリー『戦士の刻印』 第13回 講義：黒人音楽の源流をたどる | 【後期】 第1回 後期発表担当映画決定（以下担当映画） 第2回 『ロング・ウォーク・ホーム』 第3回 『ゴースト・オブ・ミシシッピ』 第4回 『マルコムX』 第5回 『ゲット・オン・ザ・バス』 第6回 『スクール・デイズ』 第7回 『ドゥ・ザ・ライト・シング』 第8回 『招かれざる客』と『ジャングル・フィーバー』 第9回 『ボーイズン・ザ・フード』 第10回 『ポエティック・ジャスティス』 第11回 『ため息つかせて』 第12回 『ソウル・フード』 第13回 『ティナ』 第14回 講義：黒人教会のクリスマス礼拝 第15回 レポート提出、年度末お別れ講義 | |
| 進め方 | 授業はグループごとの学生の発表を中心に進めていく。発表担当者はレジメを作成して、クラスの他学生の理解の指針を提示する。映画を題材とした発表となるために、必ず発表の対象とした映画を持参して発表時には最適と思われる箇所（約10分程度）を見せるようにする。 | | |
| テキスト | 岩本裕子『スクリーンに見る黒人女性』（メタ・ブレン、1999年） | 参考文献 | 大学や地域の図書館などを有効に使い、よりよい発表のためにどのような参考書を使えばよいかは、発表仲間との共同作業で探してほしい。 |
| 評価方法 | 出席：30% 各学期1回の発表：30% 各学期1回のレポート：40% | | |

| 民俗学 | | 通年 4 単位 | |
|----------------------|--|--|--|
| 柳田国男の世界－日本人の心の歴史をまなぶ | | 持田 叙子（もちだ のぶこ） | |
| ねらい | 主に、柳田国男の文章を中心に紹介しつつ、日本民族学についての基礎的な知識を得ることをめざします。日本民族学の創始者・柳田国男の文章は一般読者にむけて書かれたわかりやすく美しいものが多いのです。そして年中行事をはじめ、お米やお酒の話、旅行の話、妖怪やおばけなど、私たちの生活の中の楽しく面白い話題が豊富です。 | | |
| 授業計画 | <p>【前期】</p> 第1回 柳田国男のプロフィール（故郷、生いたち） 第2回 “ ” 第3回 柳田国男と民俗学について 第4回 『遠野物語』前夜 第5回 『遠野物語』の世界（山にいる、先住民への注目） 第6回 “ ”（日本人と山） 第7回 “ ”（オシラサマのふしぎ） 第8回 “ ”（ “ ” ） 第9回 “ ”（ “ ” ） 第10回 “ ”（児童考） 第11回 “ ”（日本人の霊魂感） 第12回 “ ”（ “ ” ） 第13回 “ ”（ゆうれいの話） 第14回 “ ”（死後の世界） 第15回 “ ”（日本人と動物） | <p>【後期】</p> 第1回 『海南小記』の世界（日本民族学と沖縄） 第2回 “ ”（巫女の伝統） 第3回 “ ”（ “ ” ） 第4回 “ ”（ “ ” ） 第5回 『妹の力』（女性の歴史） 第6回 『 “ ” 』（ “ ” ） 第7回 『山椒大夫考』（伝説の研究） 第8回 『桃太郎の誕生』（昔話と日本人） 第9回 『塩雑談』（塩の呪力） 第10回 『のしの起源』（おせいぼの源） 第11回 年中行事と民俗 第12回 クリスマスとお正月 第13回 雪国のお正月 第14回 子どもの民俗 第15回 “ ” | |
| 進め方 | なるべく1回1話の読みきりで、皆さんといっしょにさまざまな柳田国男およびその周辺の民俗学者の文章を読んでゆきます。著者や著作の背景を説明し、基礎的な教養も習得できるようにします。時間内には皆さんに、読後エッセイを書いていただいたり、一人一回こわい体験話や怪談、ふしぎな話や伝説を発表していただくので、ご協力をよろしく。 | | |
| テキスト | ちくま日本文学015『柳田国男』（文庫）880円 他は、そのつど配布いたします。 | 参考文献 | 潮日本文学アルバム 柳田国男』（新潮社）『遠野物語の世界』（石井正己著、河出書房新社）など。他は授業時に指示いたします。 |
| 評価方法 | レポート:70% 出席状況:30% | | |

| 日本美術史 | | 通年 4 単位 | |
|----------|---|---|---|
| 古代・中世の美術 | | 成原 有貴（なりはら ゆき） | |
| ねらい | 飛鳥・白鳳時代から室町時代までの美術について概説する。各時代の代表作の内容や表現の特徴について学ぶと共に、特に、日本と中国大陸・朝鮮半島との関係に注目しながら作品を捉え、広い視野で「日本美術」の歴史を学ぶ。具体的には、各時代の日本と大陸・半島との政治・外交・文化的関わりをふまえ、作品の社会的意義や機能を考える。 | | |
| 授業計画 | <p>【前期】</p> 第1回 「日本美術」の成り立ち 第2回 飛鳥・白鳳時代 法隆寺 玉虫厨子 1 第3回 飛鳥・白鳳時代 法隆寺 玉虫厨子 2 第4回 飛鳥・白鳳時代 法隆寺 金堂壁画 1 第5回 飛鳥・白鳳時代 法隆寺 金堂壁画 2 第6回 飛鳥・白鳳時代 高松塚古墳壁画 1 第7回 飛鳥・白鳳時代 高松塚古墳壁画 2 第8回 奈良時代 正倉院宝物 1 第9回 奈良時代 正倉院宝物 2 第10回 平安時代 唐絵とやまと絵 1 第11回 平安時代 唐絵とやまと絵 2 第12回 平安時代 仏画・仏教説話画・装飾経 1 第13回 平安時代 仏画・仏教説話画・装飾経 2 第14回 前期のまとめ 第15回 試験 | <p>【後期】</p> 第1回 平安時代 絵巻 1 第2回 平安時代 絵巻 2 第3回 平安時代 絵巻 3 第4回 鎌倉時代 絵巻 1 第5回 鎌倉時代 絵巻 2 第6回 鎌倉時代 絵巻 3 第7回 鎌倉時代 仏画と仏教説話画 1 第8回 鎌倉時代 仏画と仏教説話画 2 第9回 室町時代 水墨画とやまと絵屏風 1 第10回 室町時代 水墨画とやまと絵屏風 2 第11回 室町時代 水墨画とやまと絵屏風 3 第12回 室町時代 絵巻と物語絵 1 第13回 室町時代 絵巻と物語絵 2 第14回 後期のまとめ 第15回 試験 | |
| 進め方 | 講義形式で行う。パワーポイントで作品を映写する。授業時に数回、小レポート（作品についての記述など）の作成・提出を求める。 | | |
| テキスト | 特に指定しない。授業の要点を記したプリントを配布する。 | 参考文献 | 『日本美術全集』講談社、『世界美術大全集 東洋編』小学館、日高薫『日本美術のことは案内』小学館 2003年。全集の該当巻などは授業時に指示 |
| 評価方法 | 試験:50% 平常点:50% | | |

| | | | |
|-------------|---|---|---|
| 日本文学 | | 通年 4 単位 | |
| 芥川龍之介の小説を読む | | 岡崎 直也 (おかざき なおや) | |
| ねらい | 明治・大正文学の総決算として日本における近代小説の高度な到達点を示し、国語教材としても周知の芥川龍之介の代表作を精読する。西洋と東洋との葛藤や混交のただなかで生き、身をもって近代の終焉を告げた芥川が現代文学へ受け渡した諸問題について検討したい。近代小説の方法や文章表現を追いつつ、あわせて小説の読解力を養うものとす | | |
| 授業計画 | 【前期】 | 【後期】 | |
| | 第1回 芥川文学の概説 1 第2回 芥川文学の概説 2 第3回 芥川文学の概説 3 第4回 「大川の水」 1 第5回 「大川の水」 2 第6回 「羅生門」 1 第7回 「羅生門」 2 第8回 「羅生門」 3 第9回 「鼻」 1 第10回 「鼻」 2 第11回 「鼻」 3 第12回 「地獄変」 1 第13回 「地獄変」 2 第14回 「地獄変」 3 第15回 「地獄変」 4 | 第1回 「奉教人の死」 1 第2回 「奉教人の死」 2 第3回 「奉教人の死」 3 第4回 「奉教人の死」 4 第5回 「舞踏会」 1 第6回 「舞踏会」 2 第7回 「舞踏会」 3 第8回 「杜子春」 1 第9回 「杜子春」 2 第10回 「杜子春」 3 第11回 「藪の中」 1 第12回 「藪の中」 2 第13回 「藪の中」 3 第14回 「蟹気楼」 1 第15回 「蟹気楼」 2 | |
| 進め方 | 講読形式の授業を想定しているが、受講者の希望があれば、注釈・研究史・鑑賞などの整理をもとに発表してもらうこともある。 講読・発表の別なく受講者には、問題意識をもった授業参加と自由で活発な質疑応答とを期待する。 | | |
| テキスト | 芥川龍之介著『羅生門 蜘蛛の糸 杜子春 外十八篇』（文藝春秋・文春文庫） ほかにプリントを配布する。 | 参考文献 | 関口安義編『芥川龍之介全作品事典』（勉誠出版）、関口安義編『芥川龍之介新事典』（翰林書房）、志村有弘編『芥川龍之介大事典』（勉誠出版） |
| 評価方法 | 平常点:60% 学年末レポート:40% | | |

| | | | |
|-------------|--|-------------------|---------------------------------------|
| 法学特講 | | 前期 2 単位 | |
| 社会問題を法的に考える | | 信澤 久美子 (のぶさわ くみこ) | |
| ねらい | 社会問題を法的に考えることで、解決策を探ります。私の専門は、環境問題、情報法、消費者法、事故法ですが、その他の問題を取り上げても構いません。日頃、興味を持っていたこと、どうしても納得できないこと等、詳しく調べて、みなで討議の上、私が質疑応答に答えます。社会問題の解決へ向かってより深く理解できます。 | | |
| 授業計画 | 【前期】 | 【後期】 | |
| | 第1回 インTRODクシヨン 第2回 レポーターの報告・討論と質疑応答授業 第3回 レポーターの報告・討論と質疑応答授業 第4回 レポーターの報告・討論と質疑応答授業 第5回 レポーターの報告・討論と質疑応答授業 第6回 レポーターの報告・討論と質疑応答授業 第7回 レポーターの報告・討論と質疑応答授業 第8回 レポーターの報告・討論と質疑応答授業 第9回 レポーターの報告・討論と質疑応答授業 第10回 レポーターの報告・討論と質疑応答授業 第11回 レポーターの報告・討論と質疑応答授業 第12回 レポーターの報告・討論と質疑応答授業 第13回 レポーターの報告・討論と質疑応答授業 第14回 レポーターの報告・討論と質疑応答授業 第15回 総括 | | |
| 進め方 | 毎回、あらかじめレポーターを決めて、報告をしてもらいます。それについて、みなで討論した上で、私が質疑応答を通して、解説をします。なので、レポーターに当たっている人は休まないで下さい。レポーターが休む場合に備えて、次の順番の人も、発表できるように準備して授業に出席して下さい。 | | |
| テキスト | 使用しません | 参考文献 | 六法があると便利ですが、必要な条文はインターネットでダウンロードできます。 |
| 評価方法 | 出席:20% レポーター報告:80% | | |

| 経済学特講 | | 前期 2 単位 | |
|-------|--|----------------|---------------|
| 経済学特講 | | 秋富 創（あきとみ はじめ） | |
| ねらい | この講義では、ヨーロッパ・アメリカ経済、あるいは、市場経済全般に関する現状・歴史分析を扱った文献を購読している。ここでは隔年で日本語と英語の文献を取り上げているが、2009年度は英語を取り上げる年度に該当する。本科で扱われるよりも難易度が高い、市場経済に関する英語の文献を購読する予定である。 | | |
| 授業計画 | 【前期】 第1回 インTRODクシヨN 第2回 経済学特講 第3回 経済学特講 第4回 経済学特講 第5回 経済学特講 第6回 経済学特講 第7回 経済学特講 第8回 経済学特講 第9回 経済学特講 第10回 経済学特講 第11回 経済学特講 第12回 経済学特講 第13回 経済学特講 第14回 経済学特講 第15回 経済学特講 | | |
| 進め方 | 出席者が少数であることが予想されるため、原則的にはゼミ形式を想定している。参加者の間で文献を講読・翻訳し、内容について討論する。 | | |
| テキスト | 出席者と相談の上決定する。 | 参考文献 | 出席者と相談の上決定する。 |
| 評価方法 | 出席:50% 授業への参加度:50% | | |

| 教育学特講 | | 前期 2 単位 | |
|-----------|--|-----------------|--------|
| 現代教育の基本問題 | | 清水 康幸（しみず やすゆき） | |
| ねらい | 現代教育のかかえる課題はきわめて深刻であり、かつ重い。この背景には、日本の教育の歴史的特性に規定される要因と、近代学校そのものに内在する不可避的な要因とが絡みあって存在している。この授業では、これらについての歴史的・原理的な理解を得るとともに、今日の教育問題を具体的にに取り上げ考察することを目的とする。 | | |
| 授業計画 | 【前期】 第1回 発題 第2回 近代学校の原理と特質（1） 第3回 近代学校の原理と特質（2） 第4回 文献の読み合い 第5回 文献の読み合い 第6回 文献の読み合い 第7回 現代教育の諸問題（1） 第8回 現代教育の諸問題（2） 第9回 現代教育の諸問題（3） 第10回 文献の読み合い 第11回 文献の読み合い 第12回 文献の読み合い 第13回 文献の読み合い 第14回 文献の読み合い 第15回 まとめ | | |
| 進め方 | 講義形式とゼミ（発表）形式とを交互に組み合わせて行う。講義で得た基本的な知識をもとに、学生が文献にもとづく発表を行い意見交換を行う。 | | |
| テキスト | 授業時に提示する。 他に、プリントを配布する。 | 参考文献 | 随時紹介する |
| 評価方法 | 期末レポート:50% レポート発表:30% 出席:20% | | |

| 社会学特講 | | 前期 2 単位 | |
|----------------------|--|-------------------|---------------|
| 現代社会の特徴について社会学的に考察する | | 渡邊 良智 (わたなべ よしとも) | |
| ねらい | 現代社会は、産業主義と民主主義を主導力として、近代社会の中から生まれてきた。現代社会については、大衆社会、消費社会、情報化社会、少子高齢化社会等々、この社会の特徴を捉えたさまざまな呼称がある。この特講では、これら多様な現代社会論を取り上げて、現代社会の特徴について、社会学的に検討してみたい。 | | |
| 授業計画 | 【前期】 第1回 近代社会から現代社会へ 第2回 高度産業社会 第3回 高度資本主義社会 第4回 大衆社会 第5回 消費社会 第6回 情報化社会 第7回 学歴社会 第8回 格差社会 第9回 リスク社会 第10回 未婚・晩婚化社会 第11回 少子高齢化社会 第12回 都市化社会 第13回 移民社会 第14回 グローバル化社会 第15回 まとめ | | |
| 進め方 | 少人数の授業なので、講義よりも演習の形で進める。各自テーマを選んで報告してもらい、討論を行う。受講者には、主体的関心をもって、授業に参加することが、要請される。 | | |
| テキスト | 特に使用しない。 | 参考文献 | 基本的文献を適宜紹介する。 |
| 評価方法 | 出席:20% 平常点:20% レポート:60% | | |

| 社会心理学特講 | | 後期 2 単位 | |
|-------------------|---|----------------|------------------------------------|
| 社会的認知の視点から見た人間の営み | | 武田 美亜 (たけだ みあ) | |
| ねらい | 自己、他者や世の中のさまざまな物事について、私たちは絶えずそれらを認知し、評価や判断を行いながら毎日を生きている。そうした認知、評価や判断がどのように行われているのかについて、社会的認知という視点から考えていく。 | | |
| 授業計画 | 【後期】 第1回 ガイダンス 第2回 自動的過程と意識的過程1：自動性の特徴 第3回 自動的過程と意識的過程2：二過程モデルの考え方 第4回 自己1：自己に関する知識 第5回 自己2：自己に対する評価 第6回 対人認知1：個人に対する認知 第7回 対人認知2：他者の特性推論 第8回 対人認知3：集団の認知1・社会的アイデンティティ理論 第9回 対人認知4：集団の認知2・なぜ偏見はなくなるのか 第10回 帰属過程1：帰属のモデル 第11回 帰属過程2：自己と他者での帰属のしかたの違い 第12回 社会的推論1：物事を判断するための2つの方略 第13回 社会的推論2：さまざまなヒューリスティック 第14回 感情と認知の相互影響 第15回 全体のまとめ：社会的認知の視点から人間をとらえる | | |
| 進め方 | 講義だけでなく、簡単な実験や調査を行うほか、いくつかのテーマについて参加者全員でのディスカッションの時間を設ける。社会的認知の最新の知見をできるだけ取り入れて紹介する。 | | |
| テキスト | 特に指定しない。 | 参考文献 | 『社会的認知ハンドブック』『社会心理学と無意識』その他適宜紹介する。 |
| 評価方法 | 試験:60% 出席:20% 授業への参加度:20% | | |

| | | | |
|--------------|---|-------------------|--|
| マスコミ論特講 | | 後期 2 単位 | |
| マスコミの報道と人権侵害 | | 渡邊 良智 (わたなべ よしとも) | |
| ねらい | 近年、マスコミの報道による人権侵害が問題になっている。犯人・容疑者でもない無実の人々を犯人・容疑者扱いしたり、名誉毀損、プライバシー侵害、肖像権侵害で、マス・メディアが訴えられている。また被害者・遺族に対する人権侵害もみられる。この講義では、マスコミの報道の自由と個人の人権とをどう調和させたらよいか検討する。 | | |
| 授業計画 | 【後期】 第1回 国民の「知る権利」と報道の人権侵害 第2回 犯人視報道 第3回 名誉毀損(1) 第4回 名誉毀損(2) 第5回 プライバシー侵害(1) 第6回 プライバシー侵害(2) 第7回 肖像権侵害 第8回 誤報による人権侵害 第9回 被害者・遺族に対する人権侵害 第10回 取材による人権侵害 第11回 客観報道主義 第12回 実名報道と匿名報道 第13回 報道被害の救済(1) 第14回 報道被害の救済(2) 第15回 まとめ | | |
| 進め方 | 少人数の授業なので、講義よりも演習の形で授業を進める。各自テーマを選んで報告してもらい、討論を行う。 | | |
| テキスト | 特に使用しない。必要な資料を適宜配布する。 | 参考文献 | 宮原守男監修『名誉毀損・プライバシー』（ぎょうせい）日弁連人権擁護委員会編『人権と報道』（明石書店）読売新聞社編『「人権」報道』（中央公論） |
| 評価方法 | 出席:20% 平常点:20% レポート:60% | | |

| | | | |
|----------|--|---------|----------|
| 情報社会論特講 | | 前期 2 単位 | |
| 情報社会を考える | | | |
| ねらい | 情報社会と呼ばれて久しいですが、実体がかめないまま事態が進展しているのが情報通信関連分野の常です。このような変化が激しい領域ではなかなか体系的な学習を行うことが難しいため、本科目では履修者に選択してもらい、そのテーマを詳しく学ぶことで、少しでも情報社会の様相をつかむことを目的にします。 | | |
| 授業計画 | 【前期】 第1回 ガイダンス 第2回 情報社会のトピックについて 第3回 発表資料の作成について(1) 第4回 発表資料の作成について(2) 第5回 情報社会に関する発表(1) 第6回 情報社会に関する発表(2) 第7回 情報社会に関する発表(3) 第8回 情報社会に関する発表(4) 第9回 情報社会に関する発表(5) 第10回 情報社会に関する発表(6) 第11回 情報社会に関する発表(7) 第12回 情報社会に関する発表(8) 第13回 情報社会に関する発表(9) 第14回 情報社会の諸問題 第15回 まとめ-今後の情報社会 | | |
| 進め方 | 情報社会のいくつかのトピックについて問題の背景等を説明した後、履修者に実際にテーマを選択していただき、発表していただきます。単にネットで出回っている記事だけではなく、その背景にある問題点を考えていきたいと思えます。なお、履修を検討している学生は第1回目のガイダンスに必ず出席してください | | |
| テキスト | 特にありません。 | 参考文献 | 随時紹介します。 |
| 評価方法 | 出席:15% 授業参加:35% 発表資料の作成:50% | | |

| | | | |
|--------|---|---|----------------------------------|
| 家族社会学 | | 通年 4 単位 | |
| 家族研究概説 | | 平岡 佐智子 (ひろおか さちこ) | |
| ねらい | 社会学の分野でなされてきた家族研究を体系的に学ぶ。家族についてどんな接近方法があり、いかなる家族理論が構築されてきたかを理解し、現代の家族の動向を把握する。家族に関する具体的な事実をどう捉え位置づけたらよいか、家族社会学の領域に限らず、隣接諸科学の成果も学びながら、理解を深める。 | | |
| 授業計画 | 【前期】 第1回 家族を考える視角 第2回 家族の概念と定義 第3回 社会の変化と家族変動 第4回 比較制度論 第5回 家族形態論 第6回 現代家族の様相 第7回 家族関係論 第8回 家族の構造と機能 第9回 家族集団論 第10回 家族周期論 第11回 家族の形成過程 第12回 家族の内部構造 (勢力関係・情緒) 第13回 家族ストレス論 第14回 ライフコースと家族の危機 第15回 家族の変化と現代社会の課題 | 【後期】 第1回 個人と家族 (居場所の現在) 第2回 親密性と公共性 第3回 社会秩序と権力 第4回 社会関係と自己 第5回 相互行為と自己 第6回 組織とネットワーク 第7回 メディアとコミュニケーション 第8回 身体と自己決定 第9回 労働と社会 第10回 福祉・政策・社会 第11回 環境と社会 第12回 文化と再生産 第13回 エスニシティと境界 第14回 まとめ 第15回 試験 | |
| 進め方 | 講義中心となるが、受講者数により演習形式をできるだけ多く取り入れる予定。 | | |
| テキスト | 特に指定しない。 | 参考文献 | 図書館カウンターにある2009年度指定参考図書目録を参照のこと。 |
| 評価方法 | 出席:40% 定期試験:60% | | |

| | | | |
|---------------|---|--|-------------|
| 現代技術 | | 通年 4 単位 | |
| 現代の科学技術とその問題点 | | 松村 紀明 (まつむら のりあき) | |
| ねらい | さまざまな意味で巨大化した現代の科学技術は、社会に大きな影響を与えており、色々な問題を引き起こしている。この授業では、具体的な事例を検討しながら、科学技術のありかたについて探求する。 | | |
| 授業計画 | 【前期】 第1回 私たちの生活と科学技術 (講義) 第2回 科学革命と現代の科学技術 (講義) 第3回 インターネットの抱える諸問題 (講義) 第4回 インターネットや図書館の利用について (講義) 第5回 ITを巡る諸問題1 (輪読) 第6回 ITを巡る諸問題2 (輪読) 第7回 ITを巡る諸問題3 (輪読) 第8回 ITを巡る諸問題4 (輪読) 第9回 ITを巡る諸問題5 (輪読) 第10回 ITを巡る諸問題6 (輪読) 第11回 ITを巡る諸問題7 (輪読) 第12回 ITを巡る諸問題8 (輪読) 第13回 産業活動と地球環境問題1 (輪読) 第14回 産業活動と地球環境問題2 (輪読) 第15回 産業活動と地球環境問題3 (輪読) | 【後期】 第1回 産業活動と地球環境問題4 (輪読) 第2回 産業活動と地球環境問題5 (輪読) 第3回 産業活動と地球環境問題6 (輪読) 第4回 産業活動と地球環境問題7 (輪読) 第5回 産業活動と地球環境問題8 (輪読) 第6回 医療の現場における諸問題1 (輪読) 第7回 医療の現場における諸問題2 (輪読) 第8回 医療の現場における諸問題3 (輪読) 第9回 医療の現場における諸問題4 (輪読) 第10回 医療の現場における諸問題5 (輪読) 第11回 医療の現場における諸問題6 (輪読) 第12回 医療の現場における諸問題7 (輪読) 第13回 医療の現場における諸問題8 (輪読) 第14回 まとめ (講義) 第15回 これからの科学技術のあるべき姿 (講義) | |
| 進め方 | 最初の数回は講義を行い、その後、指定するテキストを読み進み、担当者 (受講生) がテキストの該当部分の内容の発表を行う (輪読)。先端医療問題、地球環境問題、IT問題などを取り上げる予定であるが、受講生の興味関心によっては他のものを取り上げる場合もある。また、適宜、ビデオを見た上で議論を行う回も挿入する。 | | |
| テキスト | 開講時に受講者と相談して決めるが、年間で4~5冊程度を読む予定である。 | 参考文献 | 授業時に随時紹介する。 |
| 評価方法 | 出席・授業参加:30% 発表内容:70% | | |

| 国際関係 | | 通年 4 単位 | |
|-----------------------------|--|--|------------|
| 国際関係研究入門 グローバル社会を読み解くトレーニング | | 芝崎 厚士 (しばさき あつし) | |
| ねらい | 国際関係に関する基礎的な事項・概念・人物、などを扱った文章を、テーマごとに読み解き知識を身につけること、映像・音楽などの各種メディアに対するリテラシーを高めること、がねらいです。英語の資料を主に使いますので、社会に出てから世界を知り、表現する上で役立つ実践的な英語力も養成します。 | | |
| 授業計画 | <p>【前期】</p> 第1回 ガイダンス 第2回 国際関係論とは 学ぶことの意味、目的 第3回 国際関係の歴史 ウェストファリア条約から9.11後まで 第4回 主権国家と国民国家 第5回 映像分析1 (冷戦を考える) 第6回 パワー・ポリティックスとリアリズム 第7回 相互依存・トランスナショナリズムとリベラリズム 第8回 コンストラクティビズム、フェミニズム 第9回 外交と対外政策 理論と現実 第10回 映像分析2 (近代日本を考える) 第11回 戦争・テロリズム・ジェノサイド 第12回 平和の思想と理論 第13回 国際紛争1 民族対立・民族紛争の現状 第14回 国際紛争2 「人道的介入」論と国際社会 第15回 映像分析3 (戦争・テロリズムを考える) | <p>【後期】</p> 第1回 映像分析4 (アメリカを考える) 第2回 グローバル・ガバナンスと国際レジーム 第3回 国際経済・国際金融1 プレトン・ウッズ体制 第4回 国際経済・国際金融2 WTO以後の展開 第5回 映像分析5 (グローバル資本主義を考える) 第6回 地域統合と地域主義 理論と現状 (EU、ASEANなど) 第7回 地球環境問題 歴史・現状・理論 第8回 国際法と国際組織 (国連を中心に) 第9回 途上国と先進国の格差 南北問題の歴史と現状 第10回 映像分析6 (環境と開発を考える) 第11回 国際関係におけるジェンダーとフェミニズム 第12回 国際関係の中の子ども、少年少女 第13回 グローバル市民社会の歴史と現状 第14回 人間の安全保障と国際社会の未来 第15回 映像分析7 (グローバル社会の将来を考える) | |
| 進め方 | 要約や英文和訳、音楽や映像など知性と感性で分析するテスト形式で進めます。新聞の要約、簡単な英文和訳などの宿題を毎週課します。毎回回収する答案と宿題に基づき、出席点と平常点を評価します。授業への積極的な参加度を重視します。就職活動などを言い訳にせず、宿題を遅れず提出すること。正当性のない遅刻・欠席は厳禁。 | | |
| テキスト | 開講時に指示します。 | 参考文献 | 開講時に指示します。 |
| 評価方法 | 出席点・平常点:40% レポート(2回):30% 試験(前後期計2回):30% | | |

| 修了論文演習 | | 後期 4 単位 | |
|-----------|--|-----------------|----------------|
| 経済学修了論文演習 | | 秋富 創 (あきとみ はじめ) | |
| ねらい | 経済学に関する修了論文の執筆を希望する者に対して指導を行う。現状分析を対象とする「狭義の経済学」だけではなく、政治学・歴史学・宗教学など、他分野にまたがる「広義の経済学」を対象としても構わない。 | | |
| 授業計画 | <p>【後期】</p> 第1回 インTRODクシヨN 第2回 修了論文演習 第3回 修了論文演習 第4回 修了論文演習 第5回 修了論文演習 第6回 修了論文演習 第7回 修了論文演習 第8回 修了論文演習 第9回 修了論文演習 第10回 修了論文演習 第11回 修了論文演習 第12回 修了論文演習 第13回 修了論文演習 第14回 修了論文演習 第15回 修了論文演習 | | |
| 進め方 | 出席者の必要性や要望に応じて、テーマの選定や資料の購読、論文執筆に対する指導などを行う。授業は後期からの開講になっているが、前期から積極的に相談することが望ましい。 | | |
| テキスト | 出席者と相談の上、決定する。 | 参考文献 | 出席者と相談の上、決定する。 |
| 評価方法 | 出席:50% 修了論文:50% | | |

| 修了論文演習 | | 後期 4 単位 |
|---------------|--|--------------|
| 情報社会について考察しよう | | |
| ねらい | 情報社会に関する教養学科の修了論文演習科目です。修了論文の完成を最大の目標にして頑張ってください | |
| 授業計画 | 【後期】 第1回 ガイダンス 第2回 テーマ発表 第3回 調査発表(1) 第4回 調査発表(2) 第5回 調査発表(3) 第6回 調査発表(4) 第7回 調査発表(5) 第8回 執筆要領 第9回 論文作成指導(1) 第10回 論文作成指導(2) 第11回 論文作成指導(3) 第12回 論文作成指導(4) 第13回 論文作成指導(5) 第14回 論文作成指導(6) 第15回 論文提出・講評 | |
| 進め方 | 履修者の発表や成果の提出を元に講評という形で進めていきます。履修者の提出物が授業の前提となるので注意してください。なお、履修を検討している方は必ず第1回目のガイダンスに出席してください | |
| テキスト | なし | 参考文献 随時紹介します |
| 評価方法 | 出席:15% 発表・授業参加:25% 修了論文:60% | |

| 修了論文演習 | | 後期 4 単位 |
|--------|---|---------------------------|
| 美術史論文 | | 大野 芳材（おおの よしき） |
| ねらい | 美術の問題を作家、作品、制度など、様々な視点から多角的に捉える力を養う。論文のテーマを各自で選択し、それを文書・図像資料などを用いて、論理的・実証的に論証する方法を身につける。芸術と人との関わりについて考えることを最終の目標としたい。 | |
| 授業計画 | 【後期】 第1回 夏休みの成果の発表と論文の方向の確認 第2回 論文指導(1) 第3回 論文指導(2) 第4回 論文指導(3) 第5回 論文指導(4) 第6回 論文指導(5) 第7回 論文指導(6) 第8回 中間発表 第9回 論文指導(7) 第10回 論文指導(8) 第11回 論文指導(9) 第12回 論文指導(10) 第13回 論文指導(11) 第14回 論文指導(12) 第15回 論文発表 | |
| 進め方 | 論文のテーマを7月にはおおよそ決めて、資料の収集に夏休みから入るようにしたい。後期には参加学生のテーマに応じて資料や論文を紹介しながら、実際に論文を書き進めていく。中間発表を11月半ばに行って、互いに刺激を受けながら、よりよい論文の完成を目指したい。論文作成の進度に応じて個別指導も行う。 | |
| テキスト | 特に使用しない。 | 参考文献 論文のテーマに応じて、講義のなかで指示。 |
| 評価方法 | 修了論文:80% 出席・発表点:20% | |

| 修了論文演習 | | 後期 4 単位 | |
|-------------|--|------------------|-----------------|
| 日本史研究の課題と方法 | | 小林 瑞乃 (こばやし みずの) | |
| ねらい | 各自の興味に基づいた研究テーマを決め、研究の現状と課題をふまえながら調査・検証を進め、修了論文を執筆・完成する。 | | |
| 授業計画 | 【後期】 第1回 ガイダンス 第2回 論文作成の指導 第3回 論文作成の指導 第4回 論文作成の指導 第5回 論文作成の指導 第6回 論文作成の指導 第7回 論文作成の指導 第8回 論文作成の指導 第9回 論文作成の指導 第10回 論文作成の指導 第11回 論文作成の指導 第12回 論文作成の指導 第13回 論文作成の指導 第14回 修了論文の提出 第15回 論文の報告会 | | |
| 進め方 | 毎回各自の研究の進行状況の報告を行い、活発な討論を通じて研究を深めていく。研究テーマの決定、先行研究の調査、研究課題の分析・検討、史料の読解など、修了論文の執筆・完成に向けた総合的な指導を行う。 | | |
| テキスト | 特に指定しない。必要に応じて資料を配付する。 | 参考文献 | 研究テーマに応じて適宜指示する |
| 評価方法 | 平常点:50% 修了論文:50% | | |

| 修了論文演習 | | 後期 4 単位 | |
|----------------|--|------------------|------------------|
| 現代教育の歴史的・原理的研究 | | 清水 康幸 (しみず やすゆき) | |
| ねらい | 教養専攻科における学習のまとめとして、今日の教育や子どもをめぐる諸問題を取り上げ、教育学的観点から歴史的・原理的に研究する。自らの主体的関心に基づく具体的テーマを定め、そのための研究方法を学びつつ、修了論文としてまとまりのある成果を生み出すことを目的とする。 | | |
| 授業計画 | 【後期】 第1回 各自の関心・テーマを発表する 第2回 文献・資料調査の方法 第3回 論文の書き方 第4回 各自の発表 (文献一覧と目次案の検討) 第5回 各自の発表 (文献一覧と目次案の検討) 第6回 個別指導 第7回 個別指導 第8回 個別指導 第9回 個別指導 第10回 第一次稿の提出 (仮提出) 第11回 個別指導 第12回 個別指導 第13回 個別指導 第14回 個別指導 第15回 まとめ | | |
| 進め方 | この授業は後期科目であるが、前期から基礎的な内容について指導を開始する。後期は個別指導に重点がおかれる。特に、①各自の研究テーマを絞り、関係する文献や資料調査の見通しを立て、参考文献一覧を作成する。②研究論文作成法について学ぶ (研究テーマの立て方、文献・資料調査の方法、論文作成の手順、等) を重視したい。 | | |
| テキスト | 特に定めない | 参考文献 | 各自の関心にそって随時紹介する。 |
| 評価方法 | 論文:80% 平常点:20% | | |

| | | | |
|----------|--|-------------------|--|
| 修了論文演習 | | 後期 4 単位 | |
| ヨーロッパ近代史 | | 西願 広望 (せいがん こうぼう) | |
| ねらい | ヨーロッパ近代史の学術論文を書く。 | | |
| 授業計画 | 【後期】 第1回 文献目録作成 文献読解 第2回 文献目録作成 文献読解 第3回 文献目録作成 文献読解 第4回 文献目録作成 文献読解 中間報告 第5回 文献目録作成 文献読解 中間報告 第6回 文献目録作成 文献読解 中間報告 第7回 文献読解 中間報告 第8回 修了論文草稿作成 第9回 修了論文草稿作成 第10回 修了論文草稿作成 第11回 修了論文草稿提出 第12回 修了論文作成 第13回 修了論文作成 第14回 修了論文作成 第15回 修了論文提出 | | |
| 進め方 | 受講生の選んだテーマや、受講生の進展具合にそくした指導をおこなう。 専攻科の修了論文なので、本科の卒業論文よりも、レベルの高いものを要求する。 ヨーロッパ史なので、外国語文献の使用は当然である。 | | |
| テキスト | 特になし。 | 参考文献 | 柴田三千雄『近代世界と民衆運動』（岩波書店、1983年）。歴史学研究会編『現代歴史学の成果と課題Ⅰ・Ⅱ』（青木書店、2002-2003年）。 |
| 評価方法 | 平常点:10% 修了論文:90% | | |

| | | | |
|-----------------|---|----------------|------------------|
| 修了論文演習 | | 後期 4 単位 | |
| 社会心理学の実証研究論文を書く | | 武田 美亜 (たけだ みあ) | |
| ねらい | 社会心理学の実証研究を行い、論文をまとめる。 | | |
| 授業計画 | 【後期】 第1回 研究テーマの確認 第2回 研究・論文作成指導1 第3回 研究・論文作成指導2 第4回 研究・論文作成指導3 第5回 研究・論文作成指導4 第6回 研究・論文作成指導5 第7回 研究・論文作成指導6 第8回 研究・論文作成指導7 第9回 研究・論文作成指導8 第10回 研究・論文作成指導9 第11回 研究・論文作成指導10 第12回 研究・論文作成指導11 第13回 研究・論文作成指導12 第14回 研究・論文作成指導13 第15回 論文発表・総括 | | |
| 進め方 | 授業は後期開講になっているが、前期のうちからテーマを絞り、研究の準備を進めておく必要があるため、前期のうちに相談に来てほしい。授業時間外にも多くの時間と労力をかけることになるが、それだけに得られるものは大きいはずなので、頑張って取り組んでほしい。 | | |
| テキスト | 特に指定しない。 | 参考文献 | 研究テーマに応じて適宜紹介する。 |
| 評価方法 | 論文:60% 発表:20% 出席:20% | | |

| 修了論文演習 | | 後期 4 単位 | |
|---------|--|-----------------|-----------|
| 修了論文を書く | | 中井 章子 (なかい あやこ) | |
| ねらい | 比較文化論に関わるテーマで論文を書く。主体的に論文に取り組んでほしい。前期から相談し、テーマを決め、研究を始める。 | | |
| 授業計画 | 【後期】 第1回 論文テーマの確認、論文の書き方について 第2回 調査・研究の方法、文献リスト作り、文献調査 第3回 研究 第4回 研究 第5回 研究 第6回 研究 第7回 論文の構成を検討する 第8回 論文執筆 第9回 論文執筆 第10回 論文執筆 第11回 論文執筆 第12回 論文の仮提出 第13回 論文の改訂 第14回 論文提出 第15回 論文についての口頭試問 | | |
| 進め方 | 前期のはじめから、テーマを決めて、研究を始める。 個人指導と演習形式をまぜて行う。 必ず、前期の初めに相談に来てください。 | | |
| テキスト | 相談のうえ決める。 | 参考文献 | 相談のうえ決める。 |
| 評価方法 | 平常点（出席、研究）:40% 論文:60% | | |

| 修了論文演習 | | 後期 4 単位 | |
|------------|---|-------------------|---------------------------------------|
| 法学の修了論文を書く | | 信澤 久美子 (のぶさわ くみこ) | |
| ねらい | 日頃、不思議に思っていた社会問題、納得がいかないと思っていた社会問題等について、詳しく調べて、法律的な解決方法を探りましょう。その解決方法で問題はないでしょうか？ 論文は自問自答です。私の専門は、環境法、情報法、消費者法、事故法等ですが、それ以外をテーマにしても構いません。 | | |
| 授業計画 | 【後期】 第1回 インTRODクシヨ ン 資料の調べ方等 第2回 インTRODクシヨ ン 論文の書き方等 第3回 テマ決定指導 第4回 資料検索及びアウトライン作成指導 第5回 資料検索及びアウトライン作成指導 第6回 資料検索及びアウトライン作成指導 第7回 修了論文中間報告 第8回 修了論文中間報告 第9回 修了論文中間報告 第10回 修了論文中間報告 第11回 修了論文中間報告 第12回 修了論文中間報告 第13回 修了論文最終報告 第14回 修了論文最終報告 第15回 ゼミ論文集作成 | | |
| 進め方 | まず、資料の探し方、法律論文の書き方（特に適切な引用の仕方）等、論文を書く上で必要な指導をします。論文の内容については、中間報告を通して、質疑応答をしながら進めます。中間報告では、何度もため出されるかもしれませんが、指摘された点を調べ直すなどして、頑張ってください。必ずよいものが仕上がると思います。 | | |
| テキスト | 使用しません | 参考文献 | 六法があると便利ですが、必要な条文はインターネットでダウンロードできます。 |
| 評価方法 | 修了論文中間報告:40% 修了論文:60% | | |

| | | | |
|------------------|--|------------------|--|
| 修了論文演習 | | 後期 4 単位 | |
| 論文を書く苦しみと楽しさを知ろう | | 八耳 俊文（やつみみ としふみ） | |
| ねらい | 広い意味の科学あるいは科学文化史に関連する題目で、修了論文を執筆したいと考えている学生対象。準備から執筆に至る過程において、必要事項を習得し、質の高い修論の完成をめざします。 | | |
| 授業計画 | 【後期】 第1回 修了論文演習（科学文化史）のガイダンス 第2回 修了論文指導（1） 第3回 修了論文指導（2） 第4回 修了論文指導（3） 第5回 修了論文指導（4） 第6回 修了論文指導（5） 第7回 修了論文指導（6） 第8回 修了論文指導（7） 第9回 修了論文指導（8） 第10回 修了論文指導（9） 第11回 修了論文指導（10） 第12回 修了論文指導（11） 第13回 修了論文指導（12） 第14回 修了論文指導（13） 第15回 修了論文口頭発表 | | |
| 進め方 | 受講生の選んだテーマや内容、進展具合にそくした指導をおこないます。 | | |
| テキスト | | 参考文献 | |
| 評価方法 | 出席:20% 修了論文:80% | | |

| | | | |
|------------------------------|---|------------------|---------|
| 修了論文演習 | | 後期 4 単位 | |
| 現代社会とそこに生活している人間について考察し論文を書く | | 渡邊 良智（わたなべ よしとも） | |
| ねらい | この演習では、専攻科における学習のまとめとして、社会学ないしマスコミ論のテーマで、修了論文を書く。現代日本社会の直面している諸問題を追求することにより、私たちの生きている社会に対する幅広い視野や判断力を養うこと、さらに日本以外の社会との比較の視点を考慮すること、自分自身の考えに基づいて論文を書くこと、が期待され | | |
| 授業計画 | 【後期】 第1回 テーマの設定 第2回 論文の構想（1） 第3回 論文の構想（2） 第4回 これまでの研究のレビュー（1） 第5回 これまでの研究のレビュー（2） 第6回 仮説の設定 第7回 データの収集（1） 第8回 データの収集（2） 第9回 データの収集（3） 第10回 データの分析（1） 第11回 データの分析（2） 第12回 仮説の再検討 第13回 論文の作成（1） 第14回 論文の作成（2） 第15回 論文の完成 | | |
| 進め方 | 学生の進行段階ごとの必要にあわせて適宜指導する。 | | |
| テキスト | 特にない。 | 参考文献 | 適宜紹介する。 |
| 評価方法 | 出席:20% 平常点:20% 修了論文の評価:60% | | |

| | | | |
|---|---|--|--|
| 英語演習 | | 通年 2 単位 | |
| Discussion in English for Senkoka (Elliott) | | エリオット (ELLIOTT, M. P.) | |
| ねらい | This class will give students the opportunity to learn a variety of useful expressions for discussion in English. Students will do short readings on a wide variety of topics for homework, respond to discussion questions based on the readings in their journals, and then discuss the issues in class. | | |
| 授業計画 | <p>【前期】</p> <p>第1回 Course Introduction & Discussion Skills 第2回 Textbook: Issues in Lifestyles: Unit 1 第3回 Textbook: Unit 2 第4回 Textbook: Unit 3 第5回 Textbook: Units 4 第6回 Textbook: Units 5 & 6 第7回 Test 1 第8回 Textbook: Issues in Family: Unit 7 第9回 Textbook: Unit 8 & 9 第10回 Textbook: Units 10 & 11 第11回 Textbook: Unit 12 第12回 Test Review 第13回 Test 2</p> | <p>【後期】</p> <p>第1回 Textbook: Issues in Relationships: Units 13 & 15 第2回 Textbook: Unit 16 第3回 Textbook: Unit 17 第4回 Textbook: Issues in Life and Death: Unit 19 第5回 Textbook: Units 20 & 21 第6回 Test 3 第7回 Textbook: Units 23 & 24 第8回 Textbook: Issues in Society: Unit 25 第9回 Textbook: Unit 26 第10回 Textbook: Unit 27 第11回 Textbook: Unit 28 第12回 Textbook: Unit 29 第13回 Textbook: Unit 30 第14回 Test 4</p> | |
| 進め方 | This class will be completely in English. In this course, you will discuss a variety of topics and express your opinions and ideas in English in small groups. Students must do short readings for homework, answer journal questions, participate actively in group discussions, and take turns being discussion leader. | | |
| テキスト | Impact Issues by Richard D. Ray and Junko Yamanaka ISBN# 962-00-1480-4 | 参考文献 | We will read about 27 different topics in English in the textbook and learn how to have good discussions in English. |
| 評価方法 | Class Participation:30% Homework:20% Discussion Leader:20% Tests:30% | | |